

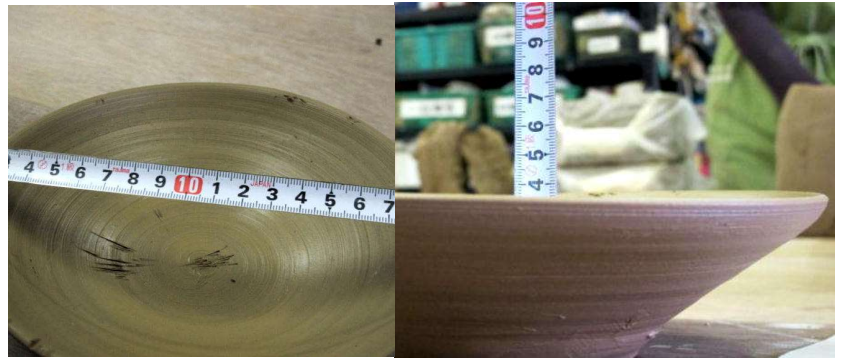
# ロクロ用内ごての自作

2013. 3

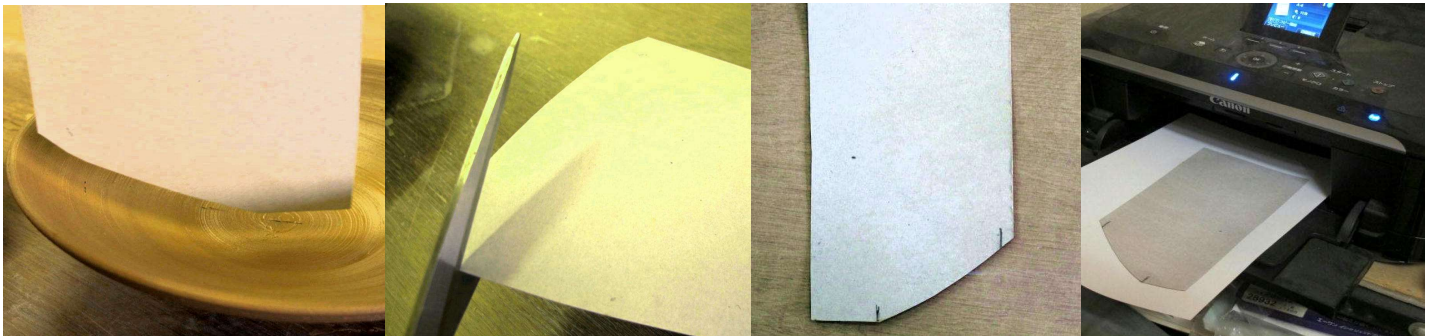


自分の形で揃いの作品を作るためには内ごてを自作する事が必要です。内径、内高寸法、内ごてを保存しておけば、トンボとセットで使うことにより数年後の追加製作も可能になります。粘土により違いますが収縮率を17%とし、型どりした第1紙型からコピー機で1.17倍に拡大した第2紙型を作ります。実際に使用するときには、おなじく出来上がり見本から1.17倍にしたトンボとセットで使います。

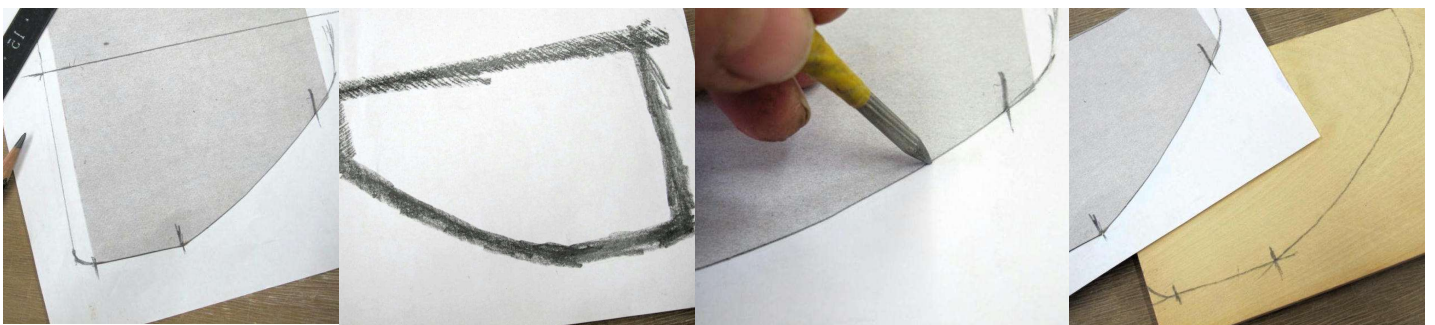
数を作る職人は材料に、目の詰んだ桜、楓、エンジュなどの硬木を使いますが、手に入りやすい、材質の均一な桂材の版木を使用しました。



焼上がりの寸法で見本を作る、製品でもOK。 内径、内高寸法を計り控えておく。



厚紙で内側の形をハサミで切りながら取る。第一紙型を裏返しコピー機で1.17倍に。



第二紙型に細部を書き込む。紙の裏にエンピツを塗りこて用板に転写。





ノコギリで大まかに切りグラインダーでならし片刃に。

当て木をした60番紙ヤスリで荒仕上。



当て木をした240番耐水ペーパーで研ぎ上げ。



こてを使いロクロで試し引きし、微調整して完成。  
※見本の内径、内高寸法を1.17倍にしたトンボを使用。



## 道具と材料

版木、厚紙、ハサミ、スケール、コピー機、鉛筆、ノコギリ、グラインダー、60番紙ヤスリ、240番耐水ペーパー、当て木、電卓。  
※グラインダーは荒目紙ヤスリでも良い。

## トンボ3種

中央は竹クシ割り箸、輪ゴム使用。両側は竹クシ、焼き鳥用クシ使用。作品の内径と内高を計る道具。

